

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | |
|---------|--------------|
| 事業所番号 | 1690100787 |
| 法人名 | 医療法人社団 萩野医院 |
| 事業所名 | グループホームやまだ |
| 所在地 | 富山県富山市山田沼又88 |
| 自己評価作成日 | 令和4年7月25日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|--|------------|------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 富山県介護福祉士会 | | |
| 所在地 | 939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年9月6日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年11月21日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は法人母体である萩野医院と24時間の医療連携をとっており、訪問診療や緊急時の往診が受けられるため、身体機能の低下や認知症の重度化が進んでも安心して過ごせるように支援出来ています。加えて、本人、家族の希望に応じて看取りを行っており、その人らしく過ごしていただけるよう萩野医院を中心とした多職種連携の体制を整えています。今年は昨年同様「多くのことに気づく視点を持ち、皆さんの笑顔を大切にします」を事業所目標とし、利用者様一人ひとりを大切に思い、気づきを大切にサービスに努めています。そして、ご家族とも良好な関係を築けるよう丁寧な対応をし信頼関係を築くよう努めています。当事業所は山間の自然豊かな穏やかな環境の中にあり、窓からは四季を感じられる景色をいつでも眺められることができ、地区の方々との交流も定着しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は山間地に位置しており、1年を通して四季を身近に感じることができる。窓から見える景色も良く、自然に囲まれた環境を気に入りに入居を決められた方もいる。利用者本人の思いを重んじその方の人生に寄り添うケアを実践している。また、訪問診療や体調不良等による24時間対応の医療体制が整っており、利用者、家族にとって安心できる場所となっている。人生の最終ステージにその方の生活の支援者として多職種でチームで向き合い、看取りケアを行っている。利用者にとって最善の策を常に話し合い、共有しながら支援が実践されており、働く職員にとってやりがいがある職場となっている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|---|-----------------------|---|----|---|-----------------------|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 年度初めに、法人理念「ゆっくり、たのしく、和やかに」を基に職員の意見を取り入れた事業所目標を立てました。前年度に引継ぎ「多くのことに気づく視点を持ち、皆さんの笑顔を大切にします」を毎朝の引継ぎ後、職員で唱和し一日のスタートを切ります。その思いを共有、実践出来るよう努めています。 | 法人理念を基に職員で話し合い、事業所目標を立てている。理念は事務所内、ホールに掲示し、毎朝職員で唱和している。利用者が言葉で表出できない思いを日常の様子から職員が察し、ケアの実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 例年ならば、地元保育園や小学校との交流会やお祭りの見学、避難訓練などを行っていましたが、コロナ流行に伴い実践することが難しい状況です。 | 事業所近くにコミュニティバスの停留所が新たに設置され、バスに乗っている小学生に手を振るなど交流を行っている。また、近くにあるパークゴルフ場で出会う住民に声をかけるなどコロナ禍の中工夫をしながら地域との関係継続に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 例年行われていた年一回開催の家族交流会に地元住民の方を招いて、施設の案内や認知症を学ぶ講演に参加頂いていましたが、コロナ流行に伴い家族交流会も行われていないため、実践することが難しい状況です。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 年間6回の運営推進会議を開催し、各施設の実績報告やサービス評価を行い、改善計画作成に向けての意見交換を行っています。また各施設からの報告書をもとに身体拘束適正化のための事例検討も行ない、意見や評価、指導を頂いています。 | 今年度は、新型コロナウイルス感染対策を講じて対面で実施している。会議では、身体拘束等適正化委員会での内容を伝え、メンバーからは助言を貰いサービスに反映している。参加できない家族には事前に会議次第を送付し、意見や要望等の聞き取りを実施している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 例年であれば2ヶ月に一度富山市からの介護相談員の来訪があり、利用者一人ひとりに寄り添い会話をして下さいます。いつもの職員とは違う人との会話が出来るようにしておりましたが、コロナ流行の為、実施出来ていません。 | 新型コロナウイルス感染症が蔓延する前は、富山市より介護相談員の訪問を受けていた。今年度は介護相談員の訪問は実施しているも、新型コロナウイルス感染症対策として職員との面談のみとしている。他、事業所運営において相談事案等があれば相談し指示を仰ぐなど連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3ヶ月に一度、身体拘束等適正化のための研修を行ない、委員会へ報告しています。そのなかで、拘束にならないためのケアの勉強会をし、利用者様に負担がかからないように、センサーマットや靴に鈴をつけるなど行動を妨げない代替え案や言葉かけを皆で考え対応策を講じています。 | 身体拘束適正化委員会で研修内容を検討し、3か月に1度研修会を実施している。委員会や研修会での内容は、運営推進会議で報告している。また、研修では、利用者に対しての適切な声かけについて学び、研修成果として利用者を尊重する声のかけ方に変化が見られた等、研修での学びが支援に活かされている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 事業所研修計画で年一度の「身体拘束・虐待の防止」、「身体拘束等適正化のための研修」の中でも虐待について学んでいます。様々な虐待がありますが特に皆で共有したいのはスピーチロックです。「言葉は心」です。優しく柔らかい言葉で接するよう努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用しておられた利用者様の看取りの際には密に連絡を取り合い最後まで全てのことを円滑に進めて頂きました。また亡くなられたご本人、親族の方々も大変、成年後見人の方を信頼して任せておられ良好な関係を築いていました。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際には、ご家族様に不安なところはないか確認し、分からないことは遠慮なく聞いてもらうようにしています。また入居のしおりをお渡しし納得して施設での生活を始めていただけるよう努めています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年一回の家族アンケートに協力していただき、ご家族様の思いを訊いています。良い意見は職員のやる気に繋がり、要望があれば改善できるよう改善案を話し合いご家族様の意見を反映できるよう取り組んでいます。 | 家族には年1回アンケート調査を実施し、家族の要望、意向を聞き取りしている。日頃から家族にはこまめに連絡をおこなっており、家族からの要望、意見等は、職員で共有しサービスに反映している。毎月発行している事業所通信は、利用者の生活の様子が伺えて家族からの反響がよい。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | カンファレンスは毎月末に行われ、ほぼ全職員が参加しています。業務について、利用者様についてなど日々気が付いたことを皆で話し合い、意見をまとめ改善策を立てています。 | 職員が全員参加するカンファレンスの際に、管理者は職員から運営に関する意見を聞き取りしている。相談内容によって施設長、管理者は法人会議で議題にあげている。また、管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図り職員の意見を運営に反映できるよう努めている。 | 日頃から管理者は職員とのコミュニケーションを図り意見を聞き取るよう努めている。職員は自己評価を実施していることから、自己評価の内容もふまえて上司との個別面談の機会を設け、より一層風通しのよい事業所作りに期待したい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 日頃から個々の勤務に取り組む姿勢を観察しています。職員同士、協力していくこと、また利用者様への対応や様々な問題への積極的な改善策を立てようとする姿勢などを考慮し、平等に人事考課をしています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員個々の質の向上を目指し、年間12回の事業所研修を行い、介護の質の向上に繋がるよう学んでいます。同じ研修テーマにも取り組み、新しい内容の学びや改めて振り返ることにより、新鮮な気持ちで介護に取り組むことが出来るよう努めています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の他事業所と認知症ケアの事例検討会を行い意見交換を行っています。また「負担軽減のための介助方法」の研修では、理学療法士から身体介助の基本を確認し、介護負担軽減のため適切な介助方法とその根拠を学びました。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者様の緊張する気持ち、不安に思うことが言葉として発することが出来るよう表情やしぐさを注視し、その思いを察し、安心していただけるよう声をかけます。「自分だったら」を基本姿勢に利用者様に寄り添い、信頼関係を築けるよう努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用者様のこれまでの経緯、生活歴を順に追ってお話し頂く中で、ご家族様にも思いをはせていただき、施設での「これからの利用者様」「これからのご家族様」のありようを具体的にイメージしたときに発生した要望を今後の生活に取り入れて行く取り組みに努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 上記の流れから、出来ること、出来ないため支援が必要なことを確認します。利用者様がどうありがたいか、ご家族様がご本人にどうあってほしいかに耳を傾け、初期支援の方向性を見極めるよう努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員にご利用者様のこれまでの生活歴や、既往歴、困っていること、出来ること、ご家族様の希望などの情報を共有しています。職員連絡ノートや入所時状況表を活用し残存能力を理解し、日々の生活の中でのリハビリをご本人と一緒に取り組んでいます。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居後も面会時などには利用者様の日々の様子をお伝えしたり、体調の変化があったときにはその状況を報告したりしています。また月に一回発行している通信では日頃の様子を載せています。その通信には最新の本人の様子をメッセージでお伝えしています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者様ができるだけ多くの方とコミュニケーションがとれるよう、窓越しの面会を行うとともに、電話の取次ぎ、手紙の代筆等ご家族お友達や遠方の親戚の方とのやり取りのお手伝いをしています。息子さんから届いた手紙に返信し、それへの喜びのお返事を見て嬉し泣きをしている姿が見られました。 | 利用者や家族から得た情報を基に関係継続に努めている。遠方に住む家族から届いた荷物に御礼の手紙を送る支援や、馴染みのある友人と電話で交流を継続する支援を行っている。また、美容の日を設け、フェイスパックやネイルを体験する企画を実施している。 | コロナ禍で、利用者の希望に適切対応できない状況の中、事業所内で行うことのできる代替案を検討するなど利用者の思いを反映した企画立案に期待したい。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う利用者様同士と一緒にパズルに取り組み協力して仕上げたり、歌を歌いながら一緒に廊下の散歩をするなどの機会があります。お互いを干渉しすぎることなく穏やかなご関係を保って生活しておられます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後も、ご本人の当施設入居時の良い写真があった時などその写真とお手紙を送るなど関係を断ち切らないようご連絡することがあります。相談などがあった場合には、誠意を込めて対応するよう努めています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご自宅での面談時には、ご本人が今まで生活してこられた自宅での様子をお聞かせ頂いたり、若い頃の写真などを見せて頂くようにしています。施設での暮らし方の希望や意向をご本人と共有できるよう努めています。 | 入居後も可能な限り自宅での生活のように過ごして頂けるよう、入居前に情報を得ている。また、日頃の関わりから、利用者の言葉をすくいあげ意向確認を行い、情報は申し送りノートに記載し職員で共有している。必要な物品を準備するなど意向の実現に向け努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人の出来ること、したいこと、やりたいけど出来ないこと、言葉に寄り添い支援するように努めています。自分の足で歩いて居室に行く、トイレに行く、ホールに行くなど歩行器を使い安全に移動出来るよう見守りし、励ましの声掛けをしています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のバイタルチェックで体調観察を行います。本人の排泄パターンに合わせたトイレ誘導や移動時の体の動き方、入浴時やオムツ交換時の皮膚の観察、食事時の様子を見てその日の状態を把握しています。またそれを夜勤者や翌日の日勤者に引継ぎしています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 施設内の限られた空間の中で残りの人生の時間を私たちと共に過ごされます。家族や職員からの日々の情報やアイデアを取り入れて「本人らしさ」を大事にし、些細なことでもやってみようとして介護計画を立て、取り組むよう努めています。 | 日々の関わりから得た利用者の意向を介護計画で実践している。できる喜びを感じてもらうことを重視し、支援内容をチーム全体で共有し環境を整えて支援している。また、家族の要望は介護計画の見直しの際に介護計画書に反映している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活の中で、利用者様がこんなことを話しておられた、こんなことが出来たという気づきを大事にし、日誌に記入するようにしています。また個別に工夫して取り組む内容は、職員連絡ノートに記載し皆が共通したやり方で出来るよう伝達しています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族様とも連絡をこまめに行い、その情報を基に施設での生活がより良いものになるように介護計画を立て、支援に生かせるように努めています。また、ご家族様にはご本人の現状が分かることが出来るよう分かりやすく記載しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 隣接するパークゴルフ場には、婦中、山田、八尾地区からも多くの方が訪れ、散歩に出かけた際には、顔見知りの方に出会うこともあります。また「ナイスショット！」と声をかけ応援し楽しい交流の場になっています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体である萩野医院が主治医であり、月一回の往診があります。年に一回の健康診断も医院に向き受診しています。また新型コロナウイルスワクチン接種も主治医より安全に受けることが出来ています。 | 主治医とは毎日利用者の健康状態を報告し、利用者の状態を共有している。主治医は事業所の母体である医療機関の医師であり、夜間や急な体調変化時にも医療を受けることができる。医療体制が整っていることで家族からの安心を得られる環境である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 萩野医院の看護師より毎日(休診日を除く)電話連絡があります。毎朝バイタル表の送信を行い、体調異常者の有無の確認があります。体調不良者が出た場合にはすぐ連絡し、医師の指示を受け適切に対応出来る体制が整っています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は家族やMSW(医療ソーシャルワーカー)と連絡を取り合い、必要時、状態確認のため、病院を訪問し、直接本人の状態を確認しています。また、法人内の連携室に相談し、体調の変化に伴う受け入れ先を検討するなど情報の共有化と他施設と連携を行っています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りの状態になられた際には、主治医より家族への説明を行います。ご家族様にご本人の終末期のあり方の希望を尋ねます。施設での看取りへの理解をしていただき、希望に沿ったケアを実践出来るよう努めています。また本人の意思も尊重しています。 | 開設9年目となるが、開設来終末期支援を行っている。主治医、看護師、家族、職員全員で利用者の意向、利用者の背景をふまえながら連携を図り支援している。また、看取り後には故人を想いながらグリーフケアを行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員へは緊急時の手順や家族への連絡先を明確にする等、管理者やケアマネジャー不在時でも確実な対応が行えるようにしています。そのため、緊急連絡網の変更を逐一行い、AED等の取り扱い研修も定期的に行うようにしています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災想定避難訓練は年2回、地元消防署と連携して初期消火や避難誘導等、基本的な行動訓練を行っています。土砂災害に対しては一時的な避難場所として隣のデイサービスを利用し、最終避難については「防災マニュアル」を策定し、公的避難所への避難を計画していますが、訓練は感染状況を踏まえて実施する予定です。 | 災害対策の火災訓練は年2回昼夜それぞれ想定して実施されている。事業所は山深い所に位置しているため、雪害、土砂災害避難計画は、立地やハザードマップを確認しながら、利用者が安全に避難できるよう作成されている。備蓄品は一定量確保されており、備蓄のチェックは年1回実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 年一回、プライバシー保護の研修を行っています。介護の様々な場面での利用者様への声掛けは不快に思われないよう、個々を思いやる言葉かけを心掛けています。また職員の気になる声掛けがあったときには互いに注意をし、気を付けるようにしています。 | 事業所内研修で、プライバシーの保護について職員は学ぶ機会があり、研修で習得したことを実践に生かした支援がなされている。また、利用者の呼称の仕方については、家族に同意を得て、利用者にとって馴染みのある呼び方を用いている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 意思表示が出来ない(排泄意を訴えることが出来ない)利用者様の仕草や表情を観察しトイレ誘導しています。また入浴の際、同性介助に代わるなど安心して貰えるよう臨機応変に対応しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床時や入眠時は本人の意向を傾聴し合わせています。日中は好きな歌手の映像を見て口ずさみながら手拍子で楽しく過ごす、新聞や絵本をじっくり読むなど個々に合わせた暮らしの支援をしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝、暖かいタオルを準備し顔を拭き、髪の毛も櫛でとき、すっきり整えています。ご家族様には季節に合わせた衣類の準備をして頂き、入浴後にはご利用様に似合った好みの服を着て頂いています。また手や顔のマッサージをしてリラックスする行事を実施しています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々の状態に合った取っ手付きの食器や持ちやすいスプーンを使用しています。食事動作が止まってしまう利用者様には声掛けをしながら介助で、または自力で食べてもらうよう見守っています。利用者様の誕生日には誕生会を行いロールケーキをデコレーションし、お祝いしています。 | 「継続して自分で食べる支援」に力を入れ、身体状況に応じた食器が準備されている。家庭菜園の茄子、きゅうり、トマトの収穫が利用者の楽しみとなっている。誕生日には地元のケーキ屋のスポンジに利用者で果物をデコレーションするなど作る楽しみの機会を設けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 必要な栄養が摂取出来るよう、職員間で話し合い、個々に合わせた食事形態で準備しています。食材を見て刻み食、ミキサー食、流動食、とろみつきなど様々な形態に臨機応変に対応しています。起床後、食事前の牛乳の提供や10時のコーヒータイムはみなさん喜ばれています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを行っています。義歯や残存歯の有無に合わせたブラシの使用、ウェットティッシュの使用、うがいの仕方に気を付け口腔内の清潔保持に努めています。年一回の「高齢者の口腔ケアと栄養管理」について研修を行い、口腔ケアの必要性について学んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄パターンを日々観察、記録しタイミングを見計らい、トイレ誘導し排尿や排便が気持ちよく自分で出来るよう支援しています。 | 新規利用者には期間を設けて終日の排泄パターンを把握し、必要な支援を行っている。実践事例として、排泄パターンからタイミングをはかり、声をかけると自らトイレに向かわれる方や、夜間の睡眠が確保できるようになった等、生活の質の向上に繋がったケースがある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日の排便状況を観察しています。毎朝の牛乳や水分の提供(一日の目標1200cc)、散歩や排便を促す運動などを行ない自然な排便を促すよう努めています。下剤の調整もして排便を促すこともあります。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一週間の計画を立てていますが、その日の体調を一番に考慮し急な変更にも対応しています。湯舟にゆっくり浸かるのが好きな方、熱めのお湯が好きな方、シャワー浴が好きな方(湯舟に入る不安がある為)など臨機応変に対応しています。また皮膚の観察を行い、保湿ケアを行っています。 | 入浴は基本週2回としているが、体調や気分に応じて柔軟に対応している。利用者の入浴に関する情報を収集し、入浴支援に繋げている。頂いたゆずでゆず風呂にするなど入浴を楽しめる環境を作っている。また、入浴後には、利用者個々のクリームで保湿ケアを行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ホールにはソファが二つあり、日中でもゆったりとくつろげるようになっていました。そこで午睡をされる方もおられます。居室には自宅で使っていた毛布やタオルケットもあり、安心して眠っていただけるようにしています。また室温にも気を付けています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報ファイルがホールに置いてあり、職員がいつでも確認することが出来ます。ご本人の排便状況を見て下剤の調節もします。服薬時には日付、氏名、時間の読み上げを行いご本人、他職員とトリプルチェックを行い誤薬の予防に努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ホワイトボードを使い様々なレクリエーションを楽しみます。しりとり、合唱、計算、ことわざ、みなさんの言葉を引き出すよう話をします。その他、パズルが得意、縫物が得意で布巾を縫う、職員と廊下のモップがけ、洗濯物畳みなど職員と一緒に日々の生活の中で役割を見つけられるよう支援しています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 年間行事計画があります。春には桜やチューリップ見学、初夏にはアジサイ・菖蒲見学、秋にはコスモス、紅葉見学へのドライブがあります。車中より、地元山田村の美しい変わりゆく景色を眺め気分転換の支援をしています。 | 外出支援は年間計画を作り実践している。桜やチューリップ、菖蒲を観にドライブに出掛けている。また、春には散歩をかねて事業所敷地内の桜を見に行っている。天気の良い日には、屋外のバルコニーに出て外気浴や体操、手持ち花火や打ち上げ花火を楽しむ等、コロナ禍の中、外出の機会を設けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 地域、当施設の特性上、お金を使うところがなく、ご家族様に管理して頂いています。少額のお金を持つことにより安心される方もおられますので、ご家族様と相談しご本人の財布をご本人の大切にされているバックに入れて持って頂いています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人から希望があれば、ご家族や友人に電話をかけるお手伝いをします。また遠方に住む甥らに年賀状を書いたり、息子さんから母の日の贈り物が届いたことのお礼の手紙を書くお手伝いをしました。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールには季節の花を飾ったり、掲示したりして季節を感じて頂けるよう工夫しています。廊下には富山の観光地、八尾おわらのポスター、ご家族様に発行している「やまだ通信」を貼っています。ホールから見える景色は季節ごとに変わり、時にカモシカが姿を見せてくれます。ピアノの優しい音色の音楽を流し、皆さんにリラックスした時間を過ごして頂けるよう配慮しています。 | 眺望の良いリビングからは、四季を身近に感じることができる。また、テラスはグリーンカーテンで、夏の暑さ軽減や遮光の工夫がされている。共有空間は、地元の馴染みのポスターや利用者や職員で制作した季節感ある作品が展示してある。また、職員が持参した花が飾られ、落ち着いて過ごせる生活空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールにある二つのソファで、個々にゆったりと過ごされることが多いです。他の方に気遣うことなく、新聞を読まれたり、テレビを見たり、眠たくなったらとうとされるなど思い思いに過ごされています。他者同士の会話には職員が間に入り、会話を盛り上げます。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個々の居室にはご自宅から使っていた布団を持ち込まれたり、ご家族やご夫婦の写真、お孫さんから届いた手紙、かわいらしい動物のカレンダーが飾られています。母の日にはきれいな花束が届きお部屋が華やかになることもあります。 | 居室は、備え付けのベッド、収納棚が備わっている。他、居室には利用者各々の必要物品や自宅で使用していた馴染みのある籐の家具などが持ち込まれている。家族写真など壁に飾られ、家族とのつながりをいつでも感じることができる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 長い廊下を生かし、歩行訓練をしています。外の景色が眺められる窓際で、手摺りを利用して下肢筋力の低下を防ぐ体操をしています。ご高齢になり、認知症の進行もありますが、個々が歩行や食事、トイレ、入浴の際に出来ることを生かせる工夫を行い(自助具の使用、姿勢など)支援しています。 | | |

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやまだ

作成日：令和 4 年 10 月 12 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 7 | スタッフが同じ方向に向けて意見を出し合い反映されているが、もっとよくなる為に現在の自己評価のシステムにとどまらず、管理者が面談を行い一人ひとりの思いを的確に把握する必要がある。 | 現在人事考課制度の実施により上司評価(一次～二次:年2回)を行い、スタッフ一人ひとりを評価しているが、個々の面談まで行っていないので、個人の業務に対する思いや意見が掴めていない状況である。そのため面談を確実にし、意見を聴取し、よりよい業務の遂行及び職場環境を整えたい。 | スキルアップシートの最終段階で面接を行い、評価とは別に、スタッフ一人ひとりの業務に対する思いを具体的に把握し、日々の業務に反映し、励みになるように取り組む。 | 12ヶ月 |
| 2 | 8 | 利用者本人さんの大好きなものに繋げることが出来るよう、色々出てくるアイデアを工夫し、更により良く楽しい生活になることを工夫する必要がある。 | 施設内で利用者さんが楽しめる企画を職員から募り、実行し、毎日の生活にメリハリと楽しみを与え、楽しく生き生きとした雰囲気を作り出す。 | ホールでのお茶の時間、BGMを入れ、メニューを提示し、好みの飲み物を好みの温かさで注文し、飲んで頂き、簡易な喫茶店の雰囲気を味わって頂くことで、従前の生活を振り返って頂く。 | 12ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。